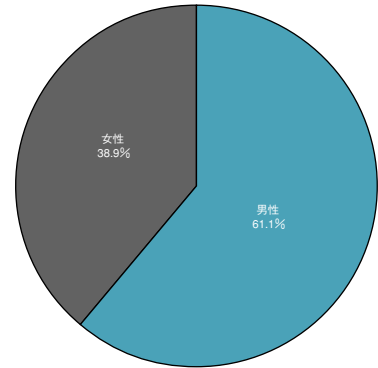


# Yahoo! BBが市場を牽引 ブロードバンドが定着した1年

## 2-1 通信回線とISPの調査概要

調査対象	自宅からインターネットを行っている16歳以上の男女個人
対象地域	全国
調査手法	インタラクティブウェブ調査
サンプリング	GMO（グローバルメディアオンライン）グループ、インプレスグループの保有するメールメディア登録者（約700万人）から無作為抽出、メール配信によるアンケートサイトへの誘導。 インプレスウェブサイト、AMI（アクセスメディアインターナショナル）ウェブサイトにてアンケートを公募、アンケートサイトへの誘導、その他
最終有効回答数	5,547サンプル
調査期間	2003年4月24日～5月9日（ただし、メディアにより時期は異なる）

回答者のプロフィール 性別 N=5,547



©Access Media/impress,2003

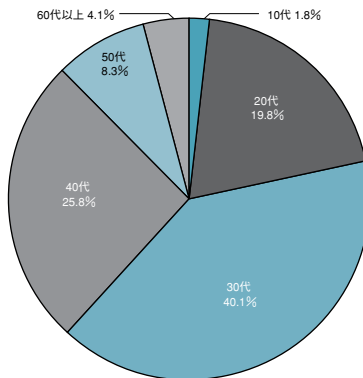
### [2003年のポイント] インターネット接続は この1年でブロードバンドが 主流になった

2002年から2003年にかけて、インターネットのブロードバンド接続は一般家庭において本格的な普及を遂げた。Yahoo!BBの参入によって始まった加入者獲得競争により、日本のADSL接続料金は世界一低価格であるともいわれるほどになっている。未だ地域格差は存在するものの、ここまで急速に一般に普及した意義は大きい。

例年どおり、本調査の対象は自宅からのインターネット接続利用者である。また、ここでいうブロードバンドとは、ADSL、CATV、光ファイバー（FTTH）、無線、FOMA等第三世代（3G）携帯電話、専用線接続を指す。一方、ナローバンドとは、基本的にISDNを含むダイヤルアップ接続を指し、第三世代携帯電話以外の携帯電話・PHSによる接続、P-in comp@ct、P-in Master、AirH等々のデータカードや端末を利用したデータ通信を含む。

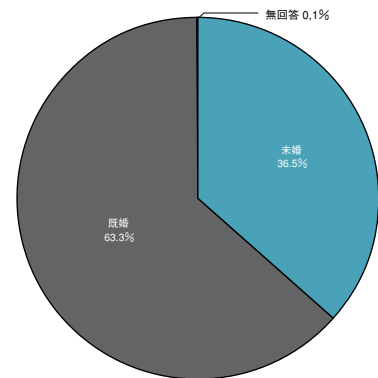
利用者の通信環境について、今年は特に主な接続利用者にそれぞれの選択理由や契約決定の重視点、満足度、乗り換え意向等を掘り下げて聞いている。

回答者のプロフィール 年代 N=5,547



©Access Media/impress,2003

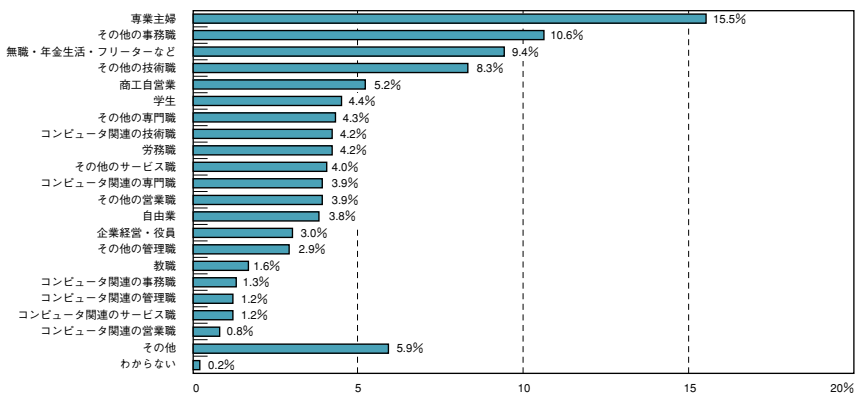
回答者のプロフィール 未婚 N=5,547



©Access Media/impress,2003

回答者の性別は男性が61.1%、女性が38.9%である。性別構成比の特色を年代別から見ると、10代と20代では女性が男性を上回っているが、年代が上がるに従い、男性比率が増加し、60代以上では約9割が男性となっている。普及率と比較すると女性比率が低いのが、このような性別年齢別構成比はここ数年間、同傾向であり、現在の日本のインターネット利用者の特色といえる。今回の白書に掲載しているそれぞれの調査の対象プロフィール全体にこの傾向が見られるのも当然といえるが、普及率が上昇していく過程で国民の年代別性別構成比に限りなく近づくかと推測できる。

回答者のプロフィール 回答者の職種 N=5,547



©Access Media/impress,2003

回答者の職種構成は、ここ数年の女性や高齢層増加の影響で「主婦」や「無職・年金生活・フリーター」の比率がやや目立つようになっている。それ以外の職種は普及率の上昇による利用者の裾野の広がりを受けて、分散化傾向である。

## ■通信回線全体の動向

今回のインターネット利用動向調査における通信回線全体の動向は、現在のブロードバンドを代表するADSL/xDSL接続の利用が全体の6割に達し、大きな特色となっている。今回の調査は昨年同時期の調査の母集団と特性が異なるため単純に比較することはできないが、ADSL/xDSL接続は、昨年44.8%（複数回答）で1位だったモデムによるダイヤルアップ接続を圧倒している。

自宅からの主な接続方法1つに絞らばった場合のブロードバンド：ナローバンド比率は82.5%：16.6%である（参考：第1部の普及率調査によるインターネット利用世帯におけるブロードバンド比率は約4割）。今回初めて、この利用動向調査にウェブ調査を採用したため、回答者の特性にややバイアスがかかっていると考えられるが、それを差し引いても過去1年間でブロードバンド接続がいかに普及したかがうかがえる結果といえよう。

1か月当たりのインターネット利用料金の平均は通信料金を含め、3,000～6,000円の価格帯で7割近くを占める。この価格帯は特にADSLの利用料金価格帯と一致する。

主な接続方法選択の理由としては、「常時接続の中で、価格が安かったから」が過半数を占め、常時接続プラス価格が安いことが回線選択の重要条件になっていることがわかる。また、現在利用している回線からほかの接続方法への乗り換え意向を聞いたところ、具体的に「乗り換え予定がある」回答者は全体の11.6%にとどまったが、「乗り換えるかどうか検討中」も33.2%見られ、条件によっては、乗り換えの可能性が高いことをうかがわせる結果となっている。

また、乗り換え予定者の望む今後の接続方法は、現状でADSL利用者が多いことから「光ファイバー（FTTH）」（50.0%）が最も多くなっている。光ファイバーは最近のエリア拡大、開通までの時間短縮とともに、最大100Mbpsで月額4,500円といったように値下げ、割引が実施されており、ADSLと比較しても高速・大容量である割にサービス料金の格差が小さくなりつつあるため、最近ADSLを導入した人でもさらに乗り換えたいという意向が生まれることが推測される。

乗り換えるかどうかを検討中の回答者に、乗り換えの強い動機となるポイントを聞いたところ、最も支持されたのは「現在利用している接続料金と同額で、より高速になった時」（73.6%）である。まさに最近のADSLに対する光ファイバーの状況と一致しており、インターネットの接続状況は短い期間でさらに高速な回線に乗り換えられる可能性が高いことを示している。

### 【2003年のポイント】 ADSLの普及は ヤフーとNTTの 競争に支えられている

## ■ADSL利用

主な接続方法として、ADSLを選択した理由は「常時接続の中で価格が安かったから」が62.6%を占める一方、ADSLの選択理由の特色として「無料試用期間があったから」や「IP電話が使えるから」といった付加価値を評価している回答者も1割程度いることが挙げられる。

その契約サービス事業者を見ると、NTTとヤフーがそれぞれ31.0%、30.5%を占め、二分している。この2社の健闘が現在のADSLの普及と加入

者獲得競争をリードしてきたといっても過言ではない。

サービスコース・速度別で見ると、ヤフーのADSL 12Mがトップである。現状では同サービス業者内でも高速サービスのコースほど人気が高いことが読み取れる。

ADSL接続の契約に際し、利用者は「サービス提供会社のウェブサイト情報」（36.1%）や「インターネットのウェブ情報・投稿サイト」（18.7%）からの情報を重視している。この傾向はCATV回線や光ファイバーでも同様に重視されているが、それらと比較するとADSL利用者は相対的に「雑誌」や「友人・知人・家族の情報」を重視する傾向が強い。

ADSL接続を選択する際に比較検討した最重要事項は「料金が安いかどうか」がトップで全体の約4割である。他の接続方法の利用者と比較すると料金へのこだわりが最も強く、これが現在のADSL選択の特徴といっていよい。この背景にはCATVや光ファイバーと異なり、ADSLがすでにエリアや開通の制限、スピードが出るかどうかといった物理的な障壁がある程度克服し、価格や付加価値サービスが加入者獲得において重要であるということを裏付けているといえるだろう。

利用者の「回線品質・スピード」に対する満足度は低いとはいえないものの、CATVや光ファイバーに比較するとやや劣る。実際に現在8Mbps未満の契約者の45.9%が12Mbpsへのアップグレードを考えている。

一方、「料金」に対する満足度はADSL選択理由で「常時接続の中で価格が安かったから」が1位だったように、CATVや光ファイバーと比較して最も満足度が高い。

ADSLの利用歴は1年未満とそれ以上

## Yahoo! BBが市場を牽引 ブロードバンドが定着した1年

が約半々存在する。CATVの1年未満の利用歴構成比が約2割、光ファイバーの1年未満の利用歴構成比が約8割と比べるとちょうど中間に位置するが、決して長いとはいえない。

ADSL利用者の1か月に支払う利用料金は3,000～4,000円の価格帯が最も多く46.6%を占める。CATVではこの価格帯は26.6%、光ファイバーでは11.9%と少ないことから、ADSLがブロードバンドの中でかなり安価であることがわかる。

しかしながら、ADSL利用者の乗り換え意向は相対的に高く、すでに「乗り換え予定のある」回答者が8.9%、「乗り換えるかどうか検討中」が33.5%見られる。全体動向でも見たように、「現在利用している接続料金と同額で、より高速になった時」にはその回線の利用歴にかかわらず、乗り換えの需要が増す可能性が高く、今後はADSLから光ファイバーなどへの移行が進むことが予測される。

### 【2003年のポイント】 CATVインターネットは テレビ視聴との併用が 高い評価につながっている

#### ■CATVインターネット利用

主な接続方法としてCATVインターネットを選択した理由は「CATVも一緒に見たかったから」が49.1%と、この回線の特徴が表れている。

CATVインターネットの最大通信速度は主に「5Mbps以下」から「12Mbps」であるが、利用者の2割が「わからない」と回答している点がCATVの場合、特徴的である。CATVでは実際には最大でどの程度のスピードが出ているのかわかりにくいいため、正直にこのような回答が増えたと見られる。

契約しているサービス事業者はCATVの場合、地域密着型で多岐に渡るため、用意された選択肢以外の「その他のCATV会社の接続サービス」が多くなる。その中でも上位に挙げられたのは「JCOM Broadband」「ZAQ（関西マルチメディアサービス）」である。

CATV接続契約に際し、利用者はADSL同様「サービス提供会社のウェブサイト情報」（33.8%）を重視している。この傾向はADSL回線や光ファイバーでも同様に重視されているが、それらと比較するとCATV利用者は相対的に「友人・知人・家族の情報」を重視する傾向が強い。また、「入居した住居にすでに入っていた」（9.4%）ケースも見られ、最近のインターネット接続を売りにしたマンション供給の実態を多少反映していることもうかがわれる。

CATV接続を選択する際に比較検討した最重要事項は「スピードが出るか」と「安い」が上位である。他の接続方法の利用者と比較するとスピードへのこだわりが強いが、これは先に述べたようにCATVでは実際には最大でどの程度のスピードが出ているのかわからないためである。CATV利用者は最大速度への関心が高いが、実際の利用者の「回線品質・スピード」に関する満足度は高く、「満足」と「やや満足」を合わせると6割以上となる。光ファイバーに比較すると若干劣るが、ADSLをかなり上回る評価である。「料金」に対する満足度は3種類の中で相対的に見ればやや劣る。ただし、選択理由としての「CATVも一緒に見たかったから」を考えれば、それほど大きな不満であるとは考えにくい。

利用者数は限定的だが、CATVの利用歴はブロードバンド3種類の中では最も長く、「2年以上」が54.9%と過半

数を占める。CATV利用者の1か月に支払う利用料金は、4,000～6,000円が半数を占め最も多く、やや高めである。

相対的に利用歴も長く、料金も高めであるが、CATV利用者の乗り換え意向は低く、「乗り換え予定のある」回答者は5.3%とどまっている。その理由としては、CATVの場合、導入の選択理由が「CATVも一緒に見たかったから」というインターネット接続と番組視聴の2つのサービスが受けられる点が評価されていることと、比較的長期間に利用している中で満足度が高いことが挙げられる。

### 【2003年のポイント】 FTTHの利用は 新築の集合住宅の 入居者から始まる

#### ■光ファイバー（FTTH）利用

主な接続方法として光ファイバー（FTTH）を選択した理由は「常時接続の中で最速であったから」が50.2%と、スピードで評価されている。

光ファイバー（FTTH）契約サービス事業者はNTTの東西が約半数を占め圧倒的のトップである。それ以外は電力会社系、有線放送系などが存在する。

光ファイバー（FTTH）接続契約に際し、利用者は他の接続方法同様「サービス提供会社のウェブサイト情報」（27.6%）を重視している。この傾向はADSL回線やCATVでも同様に重視されているが、それらと比較すると光ファイバー（FTTH）利用者は相対的に「入居した住居にすでに入っていた」（17.2%）が高い。光ファイバー（FTTH）の場合、いまだにエリアや施設工事に関して制約も多く、新築の集合住宅から優先的に導入しているケースも見られ、CATV同様、最近のインターネッ

ト接続を売りにしたマンション供給の実態を多少反映しているとみられる。

光ファイバー（FTTH）接続を選択する際に比較検討した最重要事項は「スピードが出るかどうか」と「エリア内であるか」「料金が安い」が上位に挙げられている。他の接続方法利用者と比較すると「エリア内であるかどうか」が相対的に最も高い点は制約が多いことを裏付ける結果といえるだろう。

利用者の「回線品質・スピード」に関する満足度は3種類のブロードバンド接続方法の中で最も高く、「満足」と「やや満足」を合わせると7割以上となり、光ファイバー（FTTH）の回線品質・スピードの評価が高いことは明らかである。「料金」に対する満足度はCATVとほぼ同レベルだが、回線品質・スピードの満足度が高い分、料金に対してはやや評価が割れたといえるだろう。

後発なだけに、光ファイバー（FTTH）の利用歴はブロードバンド3種類の中では最も短く、1年未満の利用歴構成比が約8割を占め、「1か月未満」も12.3%存在する。

光ファイバー（FTTH）利用者の1か月に支払う利用料金は4,000～10,000円の間で全体の約7割を占め、高額である。

料金は高めではあるが、回線品質・スピードの満足度は高く、導入して間もないため、当然ながら光ファイバー（FTTH）利用者の乗り換え意向は低い。「乗り換える予定はない」は82.4%と明らかな差があり、今後しばらくは光ファイバー（FTTH）利用者は増加することはあっても、乗り換え意向は浮上しないと推測できる。

### [2003年のポイント] ISDN利用者の ブロードバンド乗り換え意向は モデム接続より高い

主な接続方法としてISDNを利用している回答者の利用端末はほとんどが「パソコン」（100.0%：複数回答）であるが、Lモードはわずか0.8%ながら存在する。

ISDN利用者の「回線品質・スピード」に対する満足度は低く、「不満」、「やや不満」を合わせると62%に達する。「料金」に対する満足度も同様に低く48.7%である。

ISDNの利用歴は3年以上が36.4%と長いわりに1か月に支払っている利用料金は3,000円以上6,000円未満がほぼ半数を占め、やや高額に位置する。ブロードバンド回線の低価格化が進む中で、この割高感はブロードバンドへの乗り換え意向に反映されており、ISDN利用者のブロードバンド乗り換え意向はモデムによるダイヤルアップ接続利用者よりも高い。乗り換え予定者は64.5%おり、「3か月以内に換える予定」も12.9%存在する。ISDN利用者が今後契約予定のブロードバンド回線としては、過半数がADSL回線を、約3割が光ファイバー回線を挙げている。

急速にブロードバンド化が進む中で、ISDN利用者全員に現在ブロードバンド回線を利用していない理由を聞いたところ、「回線がエリア内にISDNのみだったから」（31.4%）や「回線工事が大変・手間がかかるから」（21.8%）という回答が多く乗り換え意向はあるが物理的な制約などからISDNの利用を続けているという利用者も多いようである。

相対的にISDNのコストパフォーマンスが落ちている中で、ISDN利用者は満

足度も低く、回線の乗り換え意向も高いことから、今後は条件が整い次第、着実にブロードバンド回線に乗り換えると見られ、当分ADSLや光ファイバーへの移行が見込める。

### [2003年のポイント] ダイヤルアップ利用者は 限定的な利用にとどまっている

ブロードバンドの低価格化が進む中で、モデムによるダイヤルアップ利用者全員に、現在ブロードバンド回線を利用していない理由を聞いたところ、「ダイヤルアップで十分だから・不自由は感じていないから」（24.6%）、「価格があまり安くないから」（14.3%）、「回線工事が大変・手間がかかるから」（12.8%）、「自宅であまりインターネットを利用していないから」（11.8%）が主な理由として挙げられている。

これから見る限り、もともとモデムによるダイヤルアップ利用者はインターネットの利用頻度が低く、ブロードバンドに対するメリットをあまり感じていないことがうかがわれる。また、モデムによるダイヤルアップ利用者の1か月に支払うインターネット利用料金は3,000円程度となっているため、絶対的な利用金額はブロードバンドに比べ、やや低く抑えられている。モデムによるダイヤルアップ利用者はインターネットを限定的に使い、安く済ませている層であるといえる。

しかしながら、ADSL利用料金の低下により、1か月3,000円程度という利用料金はモデムによるダイヤルアップ利用者が現在のサービスにとどまり続けるだけのコストメリットもない。そのため、ブロードバンドへの乗り換え

## Yahoo! BBが市場を牽引 ブロードバンドが定着した1年

については半数が予定しており、「3か月以内に換える予定」の回答者も11.8%見られる。その際、契約予定のブロードバンド回線はADSLが59.6%、光ファイバー（FTTH）が16.7%とADSLへの乗り換え意向が強い。

今後はモデムによるダイヤルアップ利用者のブロードバンドへの乗り換え、特にADSLへの乗り換えが進むことが予測される。

### [2003年のポイント] ISP首位はYahoo! BB 今年は同一ISP内での コース変更も増える

利用者の契約ISP（インターネットサービスプロバイダー）は今回、回答者のブロードバンド比率が高くなったため、「Yahoo!BB」（19.2%）が昨年首位の「@nifty」（15.4%）を抑えてトップとなっている。昨年までの郵送調査と異なり、今回からインターネット利用動向調査をウェブ調査に変更したことによる変化もあるが、ブロードバンド化は着実に進んでおり、全体的にダイヤルアップ時代に主要だったISPは苦戦を強いられている。

ブロードバンド利用者とナローバンド利用者の契約ISPを比べてみると、特にブロードバンドで「Yahoo!BB」が他を圧倒している。また、「@nifty」もすでにブロードバンドとナローバンドの比率が半々に達している。「Yahoo!BB」はブロードバンドの牽引者として自らの利用者を獲得するだけでなく、他のISP利用者のブロードバンドへの移行にも影響を与えており、市場全体のブロードバンド化に貢献したといえる。

利用者がISP選択時に比較検討した

事項は「料金が安いかどうか」（63.9%）で、特に女性は男性より重視している。そうした情報を得るために重視した情報源としてはウェブ情報を含む口コミ情報が信頼されている。

また、回答者が契約しているISPの評価できる付加価値サービスは、「ウイルスチェック（受信時・送信時）」（34.2%）、「IP電話サービス」（15.4%）、「ウェブメール」（14.4%）、「メール接続アカウント数」（13.9%）などが挙げられている。セキュリティーサービスや「IP電話」の評価が高いのは後述するが、利用者のセキュリティー意識の向上や格安の通話料金に魅力を感じているためだが、ここでもそれが評価されていることがわかる。

インターネット利用者全体を対象にISPの乗り換えの状況について聞いたところ、乗り換え経験のある回答者が半数近くを占め、ブロードバンドの急拡大の影響を読み取ることができる。その乗り換えの主な理由としては「料金」（68.9%）、「通信速度」（51.0%）が挙げられている。ブロードバンドの低価格化が進んだこの1年間は、まさにインターネット利用者にとって乗り換えしやすい時期であったと推測される。

乗り換え予定のISPについては半数が未定だが、すでに乗り換え先を決めている回答者は「Yahoo!BB」をはじめとする大手ISPを上位に挙げている。

今後のISP乗り換え意向は約1割で、その勢いはやや鈍化すると見られるが、ISPの付加価値サービスが充実してきているので、ISP自体の乗り換えのほかに、同一ISP内のサービスコースの乗り換え需要などはある程度喚起されると考えられる。

（矢野さよみアクセスメディアインターナショナル株式会社）



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)